

語り継ぐ命

古堅中学校

一年

比嘉

七奈子

世界にはまだ戦争で苦しんでいる国。戦争は終わってたけれども今だに苦しんでいる国があります。そういう国がある一方、日本は、「平和」の国だと言われていきます。しかし、私の住むこの沖縄でも、六十八年前に激しい地上戦が繰り広げられました。この時、二十万余の多くの尊い命が奪われました。人は、なぜ戦争をするのでしょうか。私には、その

答えがわかりません。

私の祖母は、沖縄戦でひめゆり学徒隊として戦争に巻き込まれました。当時十七歳ぐらいだった祖母はたくさん友達や先生方と一緒に日本軍と行動を共にしました。そして、傷ついた兵隊のお世話、爆弾が落ちてこない合間をぬって水くみやご飯を炊いたりしたそうです。また、寮生活を送っていたので、読谷の自宅には帰れず、南部で激戦が起こって、も同じ年頃の友達と一緒に働いていました。

その当時のことについて祖母は多くを語りません。きっと私には想像できないほどの体験をしたことでしょう。

また、私の祖父は戦争でアメリカ軍の捕虜になり、ハワイまで連れていかれました。そして、そこで重労働をさせられました。しかし、それ以上に辛かったのは、祖父の弟が鉄血勤皇隊として中学二年生で戦争に参加させられ、十四歳で亡くなったことだと話してくれました。祖父は弟がいつどこで亡くなった

たのかも分かりず、とても悔しい思いをしたことも私に教えてくれました。また、戦争で多くの人が傷ついたり亡くなりました。私も、あまりにひどい現状にあとは、死の恐怖や悲しみは薄れていってさうです。それは、戦争は人の気持ちに麻痺させたのです。

六十八年前、私達と同じ年頃の子どもまで戦争に参加させられるというひどい状況。なぜ、戦争を終わらせることができなかったのでしょう。か。私は、祖父母から当時の話を聞

いて、次のことを恐しく思いました。一つは
間違った教育を受けたことで、自ら命を絶つ
て自殺をした人が多かったこと。二つ目は
兵隊として集められた普通の人が闘いに参加
させられたこと。三つ目は、私たちと同じ年
頃の人までも戦争にかりだされたことです。
平和といわれる時代を生きる私には、考えら
れないことです。そして、これからも絶対に
戦争を起こしてはならないと心から思いまし
た。

幸い、私は身近な祖父母から戦争の悲惨さ
を学ぶことができました。私は、戦争につい
て理解し、祖父母が体験したことを語り継い
でいきたいです。そして、多くの人が互いに
助け合い、二度と戦争が起こらない、平和な
世の中になつて欲しいと思います。
しかし、現在は戦争体験者も高齢になつて
いる状況なので、若い世代の人達は戦争体験
を聞く機会も減つていくでしょう。だからこ
ろ、私達は沖縄戦で悲惨な体験をした人達の

子孫として、戦争について学び、考え、戦争に強く反対していくことが大切だと思います。そしてなにより、戦争で傷ついた人の気持ちと失われた命のことを語り継ぎ、忘れないでいきたいと思います。